

編集後記

◇市史の編集作業を行っているこの事務室は、平和通りに面した西庁舎の三階、と言うより市内の方でしたら旧水道局庁舎と言った方が通り安いところにあります。本庁舎とは渡り廊下で結ばれていて執務に不便はありませんが、編さん事業も五年目に入った現在では、各々40㎡の事務室・資料室ではいささか手狭になってきています。

市庁舎が過密状態にあるのは全庁的なことで、いまその解決策とした新庁舎の建設が、建設地の場所の問題とともに論議になっております。

◇ところで、先日ある市民の方から、家屋を建て直すに当って古い書物や資料などを整理するのを見てくれ、との連絡をいただきました。早速駆けつけ、場合によっては処分される筈であった得難い史資料を入手することができ、後日、その方面の研究を手がけているS委員が歓喜するところとなりました。

一般に、引越しや家屋の新・改築などの折、資料は大量に失われてしまします。

先のようなケースは極めてまれで、通常は、塵芥扱いになるか、焼却処分などによって思い切つてきれいさっぱりと整理されます。そしてこれは民間だけのことではなく、公的機関においても同様なことが言えるでしょう。

本市も市域は旧村八五ヶ村を抱合していますが、明治以降の合併や、市庁舎が柳町・相生町・錦町（いずれも旧町名）・現庁舎へと、空襲で焼失したのをはさんだ度々の移転によって、膨大な行政の基本史料が散逸・忘失しています。無論、「用済」の書類を全て保管し続けることにはないでしょうが、せめて廃棄の際は、「捨てる目と拾う目」を持ち合わす必要性があるのではないでしようか。

◇さて本号には、九編の論考と座談会のまとめ一編、それに小品三編（市史の広場）が寄せられました。

論題が近・現代、近世に集中したので掲載は概ねその様に配列しました。労作が多かったため、頁数は予定を大幅に延長したところです。

お忙しい中ご執筆いただきました各位には本当に有難うございました。

◇『甲府市史』の編さんは史料編第八巻（民俗・美術工芸）の編集作業に拍車がかかっています。すでに執筆は終えて、リライト・レイアウトの段階にあり、本年度末の発行に向けて進行しています。どうぞご期待いただきたいと思います。

◇周知のとおり、来年一月からNHK大河ドラマ「武田信玄」が放映されます。別に計ったわけではありませんが、市史の刊行計画では来年度、武田氏時代を含む史料編第一巻（考古・古代・中世）を発行することになっており、目下、文献史料に加えて発掘調査をも進めています。

津々浦々、戦国武将「武田信玄」に関心が及ぶことでしうが、この機会に新たな史料が掘り起され、武田氏研究の底辺の広がりと深化が望まれるところであります。

◇そのような意味もあって、次号は「武田氏と甲府」（仮題）の特集号を予定しています。民俗学や考古学など隣接諸科学をも含めた総合的な「武田氏」研究が、本誌上で展開されることを願って止みません。

（高木）